

地域留学でつくる関係人口

働き方や生活様式の変化が進む中、地方の注目度が高まっている。都市部からの移住や観光だけではなく、仕事や学業などをきっかけに地域と継続的に関わる人を「関係人口」と捉える視点もある。今回はこうした取り組みの一つ「地域留学」を紹介したい。

地域留学とは、都道府県を越境して学ぶ高校生が留学後も、その地域に関わり続け、関係人口につなげる取り組み。親元を離れた高校生が、地域留学先での実地的な学びや人間関係を通じてつくった地域とのつながりをいかす取り組みとも言える。

内閣府は、今年度から「高校生の地域留学推進のための高校魅力化支援事業」を実施。全国の計12高校を対象校に指定し、地域留學生の受け入れを支援している。

県内では県立昴学園高校（大台町）が対象校に選ばれた。既に1年生3人を留學生として受け入れている。校内での授業のみならず、道の駅での催しや、地場産品を用いた菓子作りなど、地域づくりのための現場に根付いた学びの場が提供されている。

地域が地域留学を有効活用するには、留学後のフォローが欠かせない。留学をきっかけに創出される関係人口から、地域づくりの担い手がうまれるなど「ご縁」の継続と発展に期待したい。

（コンサルティング事業部 調査グループ 主任研究員 中村 哲史）

朝日新聞「三重のけいざい ひと息コラム」 2020年11月16日